

令和七年十月十八日

麻生区文化祭

第三十七回麻生区俳句大会

入選句集

主催 麻生区文化協会
会場 麻生文化センター



第三十七回麻生区俳句大会開催にあたって

麻生区文化協会会長

板橋 洋一

今年も異常な暑さを経験しましたが、麻生区文化協会も恒例の秋の文化祭を開催することができ、多くの方々にご参加いただけることを嬉しく思います。

五・七・五の短い言葉の中に、季語を加えるなどの決まり事もあり、一つ一つの句が生み出されるまでにはそれぞれの呻吟や工夫が求められたことと思います。

文化祭行事の一つである俳句大会も、関係者の努力により、例年どおりの良句が寄せられました。長い歴史を持つ俳句ですが、今年は世相を反映したものが多く詠まれたように感じます。まさかの米不足、温暖化による日常生活の変化、また高齢化などにも読み手の関心が集まったようです。

選者の一人として一つ一つの句に秘められたものを感じたい方には力不足であることをお詫びしながら、選句されたみなさまにも心よりお礼申し上げます。

これからも俳句を通じて、麻生区の地域文化の向上と当協会へのご協力をお願いして、ご挨拶とします。

二〇二五年一〇月十八日

プログラム

第一部

- 一、開会の辞
- 一、会長挨拶
- 一、来賓挨拶
- 一、入賞者表彰
- 一、選者代表挨拶
- 一、受賞者代表挨拶
- 一、閉会の辞

第二部

- 一、当日席題句会
- 一、披講
- 一、高点句の発表・賞品授与

司会 アカデミー部 副部長 橋本 めぐる

アカデミー部

文化協会副会長

横川 はつこ

アカデミー部

関森 田鶴子
菅原 敬子

アカデミー部

司会 アカデミー部

花輪 佳子

アカデミー部

参加者全員

実行委員長

横川 はつこ

花輪 佳子
横川 はつこ

麻生区文化祭 第三十七回麻生区俳句大会 入賞作品

川崎市長賞

米騒動知らぬ田んぼの案山子かな

川崎市議会議長賞

陽の匂い乗せたトマトの直売所

川崎市教育委員会賞

初夏や銀座通りに下駄の音

麻生区文化協会会長賞

颯爽とビジネスマンの黒日傘

麻生区長賞

母に似る靴のへり薔花野ゆく

麻生市民館長賞

日本一長寿の町の禅寺丸

川崎市総合文化団体連絡会理事長賞

しぐるるやマクドナルドの一人席

川崎市観光協会会長賞

億年の星も一瞬に消す花火

麻生観光協会会長賞

大銀河独り占めして秘境駅

菅原敬子

井上加代

若林律子

西川陽子

野澤豊子

市塚照子

内山弘幸

安藤善通

中井紀久子

優秀賞

本棚に乱歩の初版夏館

森川たかし

いろは歌仮名文字美しき秋扇

塩澤 烈子

もう山は仰ぎ見るのみ登山靴

梶野貴久子

夏の雲逝きたる母の大きな背

大橋 政雄

公園の蛇口取り合う子らの汗

米井 克夫

坂の町地に緋を散らす百日紅

関森田鶴子

蟬しぐれ寡黙に過ぎる老いの刻

森本美津子

飛び交す八分音符や鳥の恋

芹澤しろう子

畑しまひ腰を伸ばせば秋の雲

庄司 鈴子

侘助の一輪統べる奥座敷

角田 珠子

夏山に立ちて地球の呼吸聞く

細貝 昭声

杖をつく夫の利手の日焼濃し

早川 靖子

田植済み土手に寝転ぶボランテア

柿沼 正之

冬の月叩けばカン！と響きそう

神宝 浩

墓碑銘の享年二歳赤まんま

都留 嘉男

甲斐駒をほんのり写し青田立つ

馬場身江子

剪定を終へし男の紫煙かな

野沢佐々代

泰山木空に陣取り天へ咲く

山岸 和言

緑さす庫裏の三和土の黒びかり

野村 邦男

わが町に楽士数多やほととぎす

横川はつこう

相澤 悟 選

特選 赤く燃ゆひとつの枯葉道に映え

つゆ光る青葉ひとひら足元に

畑しまひ腰を伸ばせば秋の雲

入選 勤め人過ぎる卯月は交差点

枯葉散るひとつひとつを手に取りて

昼寝して吾子の呼吸を確かむる

短冊に稚児の手形や星祭る

米騒動知らぬ田んぼの案山子かな

秋風や友の名消えし住所録

温度計見てはため息秋暑し

春風に背なを追はせて八十路坂

夕立ちや大地に一筆文字を書く

山裾に分け入る夕陽麦の秋

梅雨晴間子ら笹舟を競ひけり

絵日記の余白の多き猛暑かな

山 吹

山 吹

庄司 鈴子

内山 元

山 吹

細貝 昭声

藤森 成雄

菅原 敬子

菅原 敬子

山室 みゆき

山室 樹声

竹田 勲央

池内 英夫

久保田 秀司

角田 珠子

朝岡 芙貴代 選

特選 混線の子らのヤッホー夏山路

ふるさとは麦わら帽子の陽の匂ひ

憶年の星も一瞬に消す花火

入選 どんぐりを蹴る子投げる子集める子

母に似る靴のへり薔花野ゆく

学舎の明るき別れ木々芽吹く

わが町に薬土数多やほととぎす

首に汗背には冷汗^{ひよあせ}パーバット

花火音思わず二階にかけのぼる

手を洗ひ顔を拭ひてさあビール

祈る手に似て山百合の蕾かな

水澄むや水切り石の跳ねる先

亡友^{とも}の死を受け入るる夜や春の雷

後継ぎのない炎昼の鬼瓦

叩く手は祈る形の踊かな

雨宮寿美子

都留 嘉男

安藤 善通

神宝 浩

野澤 豊子

雨宮寿美子

横川はつこう

中山 善雄

内山 ゆり

池内 英夫

野沢佐々代

内山 弘幸

内山 弘幸

若林 律子

小川 竜胆

板橋洋一 選

特選

米騒動知らぬ田んぼの案山子かな 菅原 敬子

しぐるるやマクドナルドの一人席 内山 弘幸

首振りて喉軋ませて扇風機 小川 竜胆

入選

平凡でいいねと夫婦の雑煮かな 笠原 秋水

日本一長寿の町の禪寺丸 市塚 照子

逃げ惑ふゲリラ雷雨の街の中 浅川 壽雄

花火音思わず二階にかけのぼる 内山 ゆり

片付かぬままの余生や更衣 滋野 暁

風死すや呼び込みのなき商店街 朝岡美貴代

大銀杏能登に力をつけりにけり 森 智志

翡翠のシャッターチャンス逃がしたり 河野眞砂子

水甕にメダカ一匹悠々と 宮沢多佳音

ひきこもる孫に届けよ祭笛 花輪 佳子

陽の勾い乗せたトマトの直売所 井上 加代

どんぐりのすつてんころり老ひを知る 龜谷 学

内山弘幸 選

特選

初夏や銀座通りに下駄の音 若林 律子

炎天行く人影まるでマツチ樺 松本 紀子

庭石の小さな凹み名草の芽 西川 陽子

入選

残り鴨水面にうつる雲を追ひ 雨宮寿美子

春季展雨の初日の蛇の目傘 横川はつこう

墓碑銘の享年二歳赤まんま 都留 嘉男

防人の見返り畔雁渡し 都留 嘉男

桜まじ亡父三十三回忌 梅原 操

どんぐりのころころお宿は子のポケ 梅原 操

剪定を終へし男の紫煙かな 野沢佐々代

朴の花文字のうすれし開墾碑 野村 邦男

水攻めの城跡備中青田風 荒井おさむ

海風壁百万石の秋暑し 荒井おさむ

本棚に乱歩の初版夏館 森川たかし

貧しさを笑ふ母なり目刺喰ふ 野木 啓道

笠原秋水選

特選 夏山に立ちて地球の呼吸聞く
山火事の戦火の如き夜空かな

蟬しぐれ寡黙に過ぎる老いの刻
絵日記の余白の多き猛暑かな

入選 蟻ひとつ天台宗の門に入る
夏の雲逝きたる母の大きな背

残り鴨水面にうつる雲を追ひ
祈る手に似て山百合の蕾かな

ひきこもる孫に届けよ祭笛
とりどりの園児の帽子山笑ふ

颯爽とビジネスマンの黒日傘
戦没塔消えゆく跡や蟬しぐれ

庭石の小さな凹み名草の芽
墓碑銘の享年二歳赤まんま

後継ぎの慣れし手並や稲刈機
滝澤 義忠

細貝 昭声
浅川 壽雄
森本美津子
角田 珠子
大江 三郎
大橋 政雄
雨宮寿美子
野沢佐々代
花輪 佳子
早川 靖子
西川 陽子
安藤 善通
西川 陽子
都留 嘉男
滝澤 義忠

塩澤烈子選

特選 ガザの子ら笑顔忘れた星祭
遠のいた世界平和や原爆忌

米騒動知らぬ田んぼの案山子かな
鬼追ふにこれっぽちか追儼豆

入選 夏山に立ちて地球の呼吸聞く
田植済み土手に寝転ぶボランティア

防人の見返り峠雁渡し
立春の光を連れて雲動く

温暖化ではすまされぬ熱帯夜
億年の星も一瞬に消す花火

幼な子の「なんで」「どうして」草茂る
陽の勾い乗せたトマトの直売所

島眠る海に一筋月の道
涼風や釣人ひとり橋の下

どんぐりはまだ宝箱反抗期
森本美津子

齊田 裕子
齊田 裕子
菅原 敬子
上山 暢子
細貝 昭声
柿沼 正之
都留 嘉男
齊藤きのと
鯉淵 彩香
安藤 善通
芹澤しょう子
井上 加代
梶野貴久子
五十嵐みち
森本美津子

菅原敬子 選

特選 泰山木空に陣取り天へ咲く

立春の光を連れて雲動く

陽の勾い乗せたトマトの直売所

入選 雨に散る踏むを憚る合歡の花

ふるさととは水なみなみと青田波

夕立ちや大地に一筆文字を書く

夏の雲逝きたる母の大きな背

新百合の生まれ育ちの蟻の列

蒔掘りや掲げる子らの自慢顔

散る桜大きな口で待つ真鯉

両の手に熟柿一つをそっと持ち

蟬しぐれ寡黙に過ぎる老いの刻

桜鯛眠る赤子の御食ひ初め

ただいまと金魚に声や独りかな

畑しまひ腰を伸ばせば秋の雲

山岸 和言

斉藤きのと

井上 加代

滋野 暁

坂井 英子

竹田 勲央

大橋 政雄

大江 三郎

滝澤 義忠

田村 明照

森本美津子

森本美津子

酒谷 貞子

庄司 鈴子

庄司 鈴子

関森田鶴子 選

特選 木漏れ日のわらべ地藏に苔の花

緑さす庫裏の三和土の黒びかり

坂多き谷戸の神仏初詣

入選 新涼の大正池や水鏡

楊梅の好き放題に散らばれり

しぐるるやマクドナルドの一人席

本堂へオルガン運ぶ花まつり

一山を登り下りて夕かなかな

外国語混じるキャンパス柿若葉

本棚に乱歩の初版夏館

初夏や銀座通りに下駄の音

佐助の一輪統べる奥座敷

海の無き大和の国に蜃雲

水甕の谷底覗く雲の峰

セルフレジ使ひこなして梅雨晴間

柿沼 正之

野村 邦男

金森 俊子

大谷製袋次

山岸 和言

内山 弘幸

川又 要子

小川 竜胆

滝澤 義忠

森川たかし

若林 律子

角田 珠子

河野真砂子

若林 俊作

西川 陽子

都留嘉男 選

特選

青朱樂^{あきしげん}ホーチミンにもありし恋

いろは歌仮名文字美しき秋扇

明滅を闇ごと封じ螢籠

入選

母に似る靴のへり癖花野ゆく

木漏れ日のわらべ地藏に苔の花

片付かぬままの余生や更衣

鬼灯^{ひょうぶ}を部屋に主治医は江戸育ち

緑さす庫裏の三和土の黒びかり

後継ぎのない炎昼の鬼瓦

初夏や銀座通りに下駄の音

白牡丹花の白さが暮れきれず

空蟬のその瞬間のそのかたち

名優はなべて寡黙やさくら散る

蟻ひとつ天台宗の門に入る

汝と経し月日のぬくみ月見草

特選

亡友^{とも}の死を受け入るる夜や春の雷

坂の町地に緋を散らす百日紅

公園の蛇口取り合う子らの汗

入選

群れ咲きし音無きどよめき螢草

学舎の明るき別れ木々芽吹く

無住寺のひと日賑はふ仏生会

剪定を終へし男の紫煙かな

遠雷や皆足早に尾瀬の道

億年の星も一瞬に消す花火

遠近に肩車の子三社祭

老い初むや人氣氷菓を持て余す

もう山は仰ぎ見るのみ登山靴

昆虫の命ゆたかに青田かな

颯爽とビジネスマンの黒日傘

畑しまひ腰を伸ばせば秋の雲

豊田洋子 選

内山 弘幸

関森田鶴子

米井 克夫

細貝 昭声

雨宮寿美子

都留 嘉男

野沢佐々代

塩澤 烈子

安藤 善通

久保田 秀司

中井紀久子

梶野貴久子

亀谷 学

西川 陽子

庄司 鈴子

西村睦子 選

特選 墓碑銘の享年二歳赤まんま

秋深しまず黙祷のクラス会

本棚に乱歩の初版夏館

入選 行き先は病院だけの春日傘

冬の月叩けばカン！と響きそう

日本一長寿の町の禪寺丸

自販機の一際目立つ雪の夜

アスパラガス甘しホストの口甘し

緑さす庫裏の三和土の黒びかり

存へて昭和百年初日の出

初夏や銀座通りに下駄の音

大銀河独り占めして秘境界

もう山は仰ぎ見るのみ登山靴

島眠る海に一筋月の道

早晩の歩行器歩行風涼し

都留 嘉男

小沢 卯月

森川 たかし

上山 暢子

神宝 浩

市塚 照子

浅川 壽雄

鯉淵 彩香

野村 邦男

内山 弘幸

若林 律子

中井紀久子

梶野貴久子

梶野貴久子

梶野貴久子

橋本めぐる 選

特選 甲斐駒をほんのり写し青田立つ

侘助の一輪統べる奥座敷

公園の蛇口取り合う子らの汗

入選 米騒動知らぬ田んぼの案山子かな

揺るぎない書心にじます春一字

田植済み土手に寝転ぶボランティア

剪定を終へし男の紫煙かな

春季展雨の初日の蛇の目傘

春雨や目にも映らず音も無し

竹林に四温の光満ちあふれ

初夏や銀座通りに下駄の音

飛び入りの肩の白き夏祭

薩掘りや掲げる子らの自慢顔

颯爽とビジネスマンの黒日傘

山百合を求むる夫婦藪に入り

馬場身江子

角田 珠子

米井 克夫

菅原 敬子

笠原 秋水

柿沼 正之

野沢佐々代

横川はつこう

秋場 正美

斉藤きのと

若林 律子

朝岡美貴代

滝澤 義忠

西川 陽子

北條 雨舩

花 輪 佳 子 選

馬 場 身 江 子 選

特選 悔いなしとは言へぬ人生葛の花

内山 弘幸

特選 わが町に楽士数多やほととぎす

横川はつこう

島眠る海に一筋月の道

梶野貴久子

叩く手は祈る形の踊かな

小川 竜胆

杖をつく夫の利手の日焼濃し

早川 靖子

ただいまと金魚に声や独りかな

庄司 鈴子

入選 どんぐりを蹴る子 投げる子 集める子

神宝 浩

入選 夏山に立ちて地球の呼吸聞く

細貝 昭声

名月と挨拶交はす露天風呂

菅原 敬子

泰山木空に陣取り天へ咲く

山岸 和言

妻と立つ厨に聞こゆ青葉木菟

横川はつこう

露座佛は泰然自若日の盛り

大谷 袈裟次

ふるさとは麦わら帽子の陽の匂ひ

都留 嘉男

若竹に昨日の烈風今日の雨

若林 律子

逃げ惑ふゲリラ雷雨の街の中

浅川 壽雄

飛び交す八分音符や鳥の恋

芹澤 しょう子

片付かぬままの余生や更衣

滋野 暁

待ち人の時を短くする噴水

朝岡美貴代

いろは歌仮名文字美しき秋扇

塩澤 烈子

字足らずの句へ鶯の谷渡り

松本 紀子

億年の星も一瞬に消す火花

安藤 善通

陽の匂い乗せたトマトの直売所

井上 加代

人間を眺めゴリラの朝の黙

吉田 功

もう山は仰ぎ見るのみ登山靴

梶野貴久子

貧しさを笑ふ母なり目刺喰ふ

野木 啓道

侘助の一輪統べる奥座敷

角田 珠子

着替れば不礼講なる宿浴衣

馬場身江子

夏風邪にならぬ用心魚食む

野口 寒水

颯爽とビジネスマンの黒日傘

西川 陽子

青梅の青の硬さを掌に愛しみ

森本美津子

東 哲 也 選

特選 母に似る靴のへり癖花野ゆく

雨に散る踏むを憚る合歡の花

梅雨晴や迷い一掃髪切つて

入選 山わたる風と波とは同じ息

竹林に四温の光満ちあふれ

祈る手に似て山百合の蕾かな

飛び交す八分音符や鳥の恋

汗だくでこぐ坂道の通学路

陽の勾い乗せたトマトの直売所

後継ぎの慣れし手並や稲刈機

川風にのつて薄着の触れ太鼓

仏の灯ひと日ともして夏のはて

逝く夏や世界を巡る合唱心

畑しまひ腰を伸ばせば秋の雲

ふるさとは麦わら帽子の陽の匂ひ

野澤 豊子

滋野 暁

朝岡美貴代

市塚 照子

斉藤きのと

野沢佐々代

芹澤しろう子

朝岡美貴代

井上 加代

滝澤 義忠

荒井おさむ

金森 俊子

吉野 芳子

庄司 鈴子

都留 嘉男

北 條 秀 衛 選

特選 坂の町地に緋を散らす百日紅

外国語混じるキャンパス柿若葉

颯爽とビジネスマンの黒日傘

入選 石に消ゆ古城守りし瑠璃とかげ

米騒動知らぬ田んぼの案山子かな

母に似る靴のへり癖花野ゆく

剪定を終へし男の紫煙かな

秋夕焼別れのタッチ師と園児

遠き日や父に代りて代田掻き

卯浪立つ母と子の待つ舟隠し

梅雨晴や迷い一掃髪切つて

新百合の生まれ育ちの蟻の列

児稚の声蹴上げる足の端午かな

抱きたての枇杷に潤ふ旅の咽

キンキンの麦茶飲みほす畑仕事

関森田鶴子

滝澤 義忠

西川 陽子

馬場身江子

菅原 敬子

野澤 豊子

野沢佐々代

塩澤 烈子

高宗 俊雄

竹田 勲央

朝岡美貴代

大江 三郎

亀谷 学

塩澤 烈子

庄司 鈴子

松本紀子 選

特選 冬の月叩けばカン！と響きそう

A1の返答早し心太

後継ぎのない炎昼の鬼瓦

入選 鬼追ふにこれつばちか追儼豆

妻と立つ厨に聞こゆ青葉木寛

蛇穴を出づ帽子屋の店仕舞い

短夜や波音高くたたみくる

白牡丹花の白さが暮れきれず

画眉鳥や開け閉めはげし冷蔵庫

拾い読む幼な子の指春そこに

明滅を聞ごと封じ蜚籠

本棚に乱歩の初版夏館

広げたる小布端布や日短

蟬しぐれ寡黙に過ぎる老いの刻

杖をつく夫の利手の日焼濃し

神宝 浩

鯉淵 彩香

若林 律子

上山 暢子

横川はつこ

梅原 操

池内 英夫

池内 英夫

関森田鶴子

芹澤しょう子

伊原 文夫

森川たかし

近松 法子

森本美津子

早川 靖子

門伝史会 選

特選 米騒動知らぬ田んぼの案山子かな

夏の雲逝きたる母の大きな背

A1句の上位独占四月馬鹿

入選 終戦日命の重さ噛み締める

日本一長寿の町の禪寺丸

温暖化ではすまされぬ熱帯夜

世事うとく愚鈍もよろしかたつむり

悔いなしとは言へぬ人生葛の花

冴返る古刹に立ちし仁王像

炎帝の相模一国席巻す

大銀河独り占めして秘境駅

ミスター逝くみなが見送る梅雨入かな

陽の勾い乗せたトマトの直売所

絵日記の余白の多き猛暑かな

杖をつく夫の利手の日焼濃し

菅原 敬子

大橋 政雄

梅野 威彦

吉野 芳子

市塚 照子

鯉淵 彩香

野村 邦男

内山 弘幸

大橋 政雄

伊原 文夫

中井紀久子

大森みのる

井上 加代

角田 珠子

早川 靖子

山崎 なおふみ 選

特選 手を合はす蠅の姿に打つ手止め

喜寿の母老いに抗ふサンドレス

昆虫の命ゆたかに青田かな

入選 米騒動知らぬ田んぼの案山子かな

暑氣払ひ地酒ぶら下げ友来たる

首に汗背には冷汗ひやせパーバット

いろは歌仮名文字美しき秋扇

コピー機の吐き出す紙の梅雨湿り

大銀河独り占めして秘境駅

デュオを聴く人らを容るる大夏木

稲光この世へ放つ太郎の眼

仏の灯ひと日として夏のはて

公園の蛇口取り合う子らの汗

水ぬるむ空の真青へふきん干す

花火音思わず二階にかけのぼる

衣笠みちを

花輪 佳子

亀谷 学

菅原 敬子

大宮 光道

中山 善雄

塩澤 烈子

関森田鶴子

中井紀久子

小沢 卯月

角田 珠子

金森 俊子

米井 克夫

笠原 喜香

内山 ゆり

山室 樹声 選

特選 米騒動知らぬ田んぼの案山子かな

器量良き順に仔猫の貰はるる

大銀河独り占めして秘境駅

入選 初御空遠富士「白」の一張羅

甲斐駒をほんのり写し青田立つ

名月と挨拶交はす露天風呂

日本一長寿の町の禪寺丸

暑氣払ひ地酒ぶら下げ友来たる

歩かねば行けぬ温泉谷もみじ

存へて昭和百年初日の出

古い初むや人氣氷菓を持て余す

秋深しまず黙祷のクラス会

薙掘りや掲げる子らの自慢顔

曲線を壁に描いて燕飛ぶ

水音に任せ雪見のこたつ舟

菅原 敬子

都留 嘉男

中井紀久子

上山 暢子

馬場身江子

菅原 敬子

市塚 照子

大宮 光道

山室みゆき

内山 弘幸

中井紀久子

小沢 卯月

滝澤 義忠

遠藤 耀子

三山まさみ

横川 はつこう 選

特選

三線の音色枕に鳥の夏

迷ひたる姥捨山の花に会ふ

飛び交す八分音符や鳥の恋

入選

初御空遠富士「白」の一張羅

平凡でいいねと夫婦の雑煮かな

田植済み土手に寝転ぶボランティア

揺れているこころの儘に萩の花

青朱變ホーチミンにもありし恋

世事うとく愚鈍もよろしかたつむり

しぐるるやマクドナルドの一人席

さざ波が積木をくずす夏の夢

泡消えしビールに偲ぶ片想ひ

水攻めの城跡備中青田風

炎昼の信号待ちダリの世界

蟬しぐれ寡黙に過ぎる老いの刻

中山 善雄

野沢佐々代

芹澤しょう子

上山 暢子

笠原 秋水

柿沼 正之

春永 真央

渡辺 和子

野村 邦男

内山 弘幸

山下 升子

大森みのる

荒井おさむ

近松 法子

森本美津子

吉田 功 選

特選

もう山は仰ぎ見るのみ登山靴

一合の酒ちびちびと春を待つ

切り通し抜けて出合ひし街薄暑

入選

行き先は病院だけの春日傘

柚子の香に乗せて平和の種を播く

田植済み土手に寝転ぶボランティア

日本一長寿の町の禅寺丸

祈る手に似て山百合の蕾かな

遠雷や皆足早に尾瀬の道

悔いなしとは言へぬ人生葛の花

しぐるるやマクドナルドの一人席

遠き日や父に代りて代田掻き

くつきりと甲斐駒ヶ岳秋彼岸

親竹をククツ泣かせ筍を掘る

緑陰に揺れる光や麻生川

梶野貴久子

野木 啓道

早川 靖子

上山 暢子

吉野 芳子

柿沼 正之

市塚 照子

野沢佐々代

塩澤 烈子

内山 弘幸

内山 弘幸

高宗 俊雄

齊田 裕子

遠藤 耀子

森川たかし

あとがき

麻生区文化協会第三十七回麻生区俳句大会入選句集をお届けいたします。

記録的な猛暑日の続きました夏にも関わりませず、四百二十八句もの投句を頂きました。ご投句下さいました皆様に厚くお礼申しあげます。

全応募句を作品集にまとめ、二十二名の選者をお願いし、特選三句、入選十二句の計十五句をご選句頂きました。特選は二点、入選は一点として集計の結果、入賞者九名、優秀賞者二十名を別記の通り決定しました。

ただし、お一人で複数句が上位の得点を得られなかった方は最上位の句のみの賞となりましたこと、ご了承ください。

また俳句大会の当日第二部においては席題句会を行い、相互選により高点句には賞品を授与することとしております。

さて、これまで俳句界を牽引してきた俳人層の高齢化、句会の減少、AI俳句の登場、季語集と季節実感の乖離、世の中の活字離れ、俳句大会を支える人手不足など俳句文芸を巡る環境も大きく変わりがつありますが、文化協会は俳句を愛する麻生の風土を大切に、皆様のお知恵も借りながら、地域の横断的俳句交流の場として、これからも大会の継続に務めて参りたく思っております。

皆様の句会にぜひ若い方、俳句は初めてという方もお誘いくださいまして、俳句の面白さを広めて頂きたくお願い申し上げます。

明年もご応募下さいますことをお願い申し上げますとともに、皆様のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。

令和七年十月十八日

第三十七回麻生区俳句大会実行委員会

委員長 横川はつこう